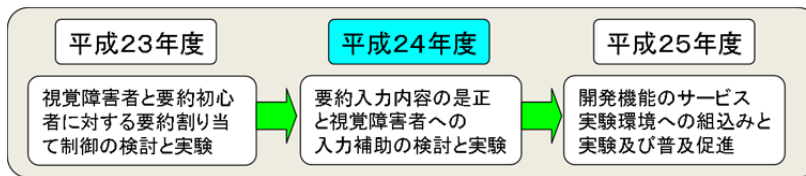


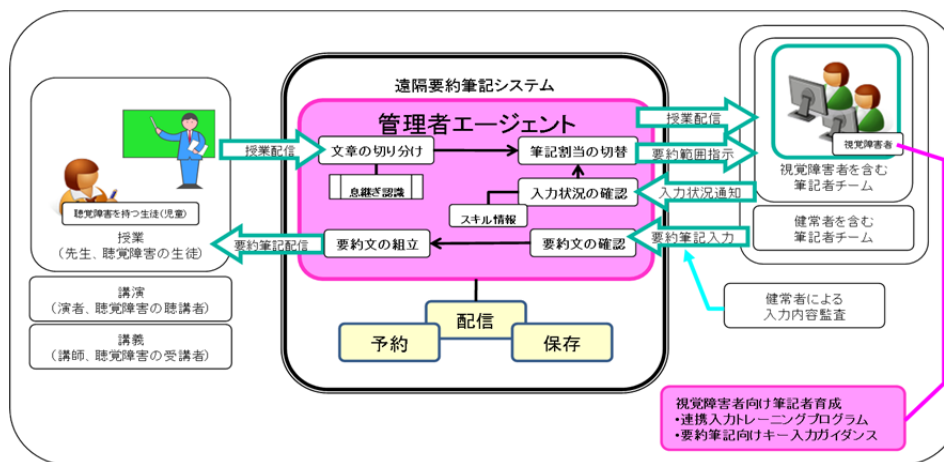
1	対象事業名	複数の視覚障害者によるリアルタイム要約筆記作業支援技術の研究開発
	対象事業者	NEC システムテクノロジー株式会社

講演者の発話内容を文や句単位に複数の視覚障害者が分担して、即時に要約筆記を行い、その結果を集計及び欠落や誤記等を改修することにより、リアルタイムな要約筆記の実現を支援する共同作業環境の構築技術の研究開発を行う。

事業計画のイメージ図



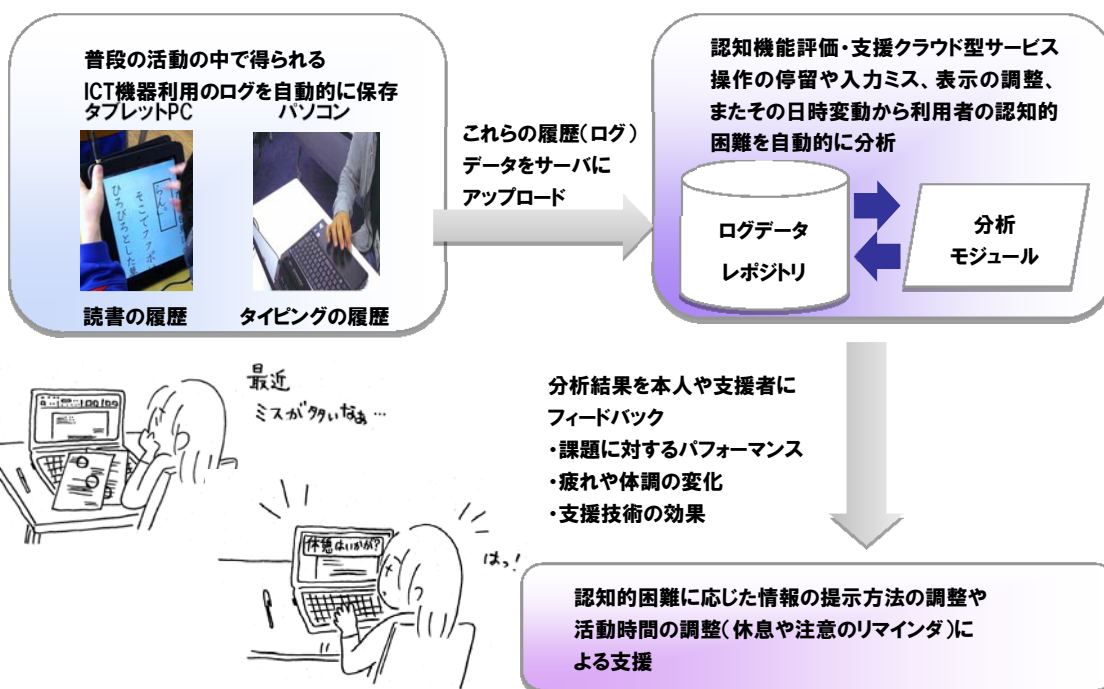
研究構成のイメージ図



2	対象事業名	認知能力評価・支援クラウドサービスの研究開発
	対象事業者	株式会社エデュアス

認知に困難を抱える障害者を主対象に、学習や就労など、普段の活動の中で読むことや書くことに利用するICT 機器の操作ログから利用者の認知的困難を判定し、得られた結果をフィードバックすることで認知支援を行うことのできるクラウド型サービスを開発する。本研究開発の期間中、以下3つの内容を実施する。

- (1) ICT 機器利用ログ保存ソフトの開発
- (2) クラウドコンピューティングを利用した認知機能評価・支援システムの開発
- (3) 実証実験、利用効果測定



3	対象事業名	視覚障害者向け音声情報スキミングのための高速再生技術の高度化および受聴支援装置に関する研究開発
	対象事業者	財団法人 NHK エンジニアリングサービス

視覚障がい者が超高速に音声をサーチしながら情報把握可能な録音図書や電子書籍再生機の開発と、その国内外での普及を目指した多言語展開の研究開発を行う。

- (1) 5倍速から8倍速での高速音声再生によるスキミング受聴
- (2) 多言語への高速音声再生技術の適応
- (3) テキスト DAISY への適応

視覚障がい者の情報取得手段



※文字情報を、録音などで音声に変換したものを「聴く」

【問題点】

- 聴き終わるまでに膨大な時間を要する
- 時間短縮のため再生速度を速くすると、聴き取りが難しい
- 聴き取れる速度では遅すぎる
- 人間の高速音声聴取の限界は3倍速程度と言われているが、より高速で疲れずに内容を把握したい
- 市販機器では、高速音声の品質が悪く、聴きづらいものも多い

【視覚障がい者の意見】


- 高速再生を利用して、より沢山の情報を得たい
- 速すぎれば聴きとれず、遅いと時間がかかる
- 一言一句聞き取れずとも「概要」がわかれば良い場合もある

「情報格差」を、高速音声の受聴により解消を目指す

成果目標

- >5倍速以上の速度での効率的概要把握を目指し、単語の欠落を許容した超高速再生の実現(機能実装)
 - 非重要語や語尾を欠落させ、重要語句のみを「ゆっくり」聴かせることで、全ての単語は聴き取らず、超高速で概要を把握する「ななめ聴き(スキミング)」の実現や、聴取者が内容に対する興味の有無を判断する「インデキシング」を実現する。
- >「音響的特徴」による言語の自動判別および最適な話速変換パラメータの自動適用の実現
 - より多く(DAISY普及国向け)の言語に対応

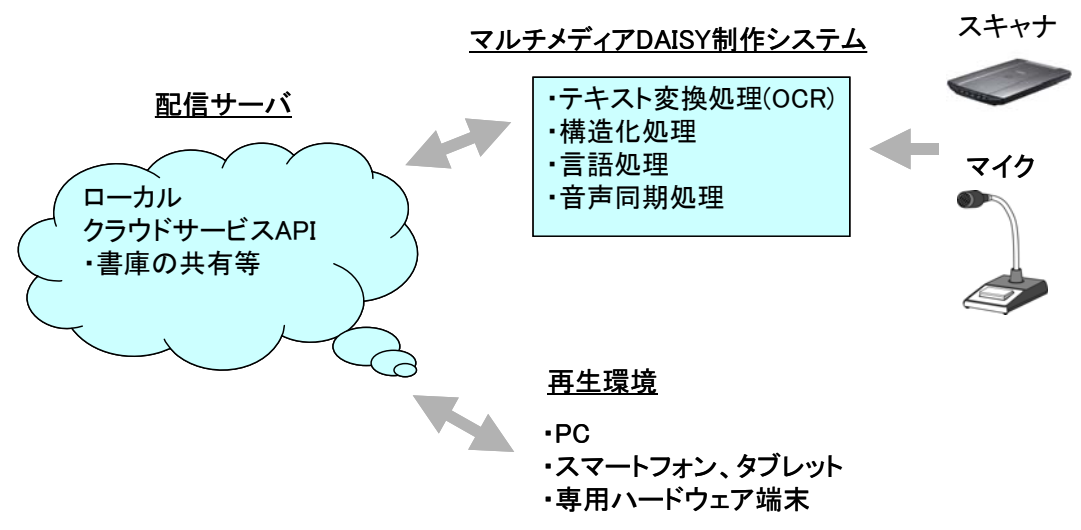


- >テキスト情報の活用による、合成音声の高品質・高精度話速変換の実現
 - テキストDAISY対応再生ソフトウェアへの実現や電子書籍プレイヤーへの拡張

4	対象事業名	マルチメディア DAISY の自動制作・利用システムの障害者支援研究開発
	対象事業者	シナノケンシ株式会社

印刷物から抽出したテキストと肉声音声を同期させたマルチメディア DAISY を自動制作するとともに、即時にスマートフォンおよびタブレット端末等での利用が可能なシステムを実現する。

この DAISY 制作・利用システムが普及することで、コンテンツが拡充されるとともに、必要な時にアクセシブルな形式で情報の入手が可能となり、読字障害者の安全安心、社会参加、学習および就労機会拡大に寄与する。



5	対象事業名	高齢者住民が主体的に地域内コミュニティを醸成し、住民同士で地域内見守りを行う体制の構築を支援するコミュニケーションサポートツールの研究開発
	対象事業者	株式会社デンソー

目的: 超高齢化社会を見据え、自治体・NPO 法人の高齢者見守りの負担を軽減するため、IT 機器を使って高齢者を含む住民同士の相互見守りをサポートする

実施内容: 動機付けと報告に使うサポートツールの構築と有用性評価

